

4:8 最後に、兄弟たち。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて評判の良いことに、また、何か徳とされることや称賛に値することがあれば、そのようなことに心を留めなさい。

4:9 あなたがたが私から学んだこと、受けたこと、聞いたこと、見たことを行いなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。

4:10 私を案じてくれるあなたがたの心が、今ついによみがえってきたことを、私は主にあって大いに喜んでいます。あなたがたは案じてくれていたのですが、それを示す機会がなかったのです。

4:11 乏しいからこう言うものではありません。私は、どんな境遇にあっても満足することを学びました。

4:12 私は、貧しくあることも知っており、富むことも知っています。満ち足りることに、飢えることに、富むことに乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。

4:13 私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできるのです。

競争で人を出し抜く者が勝者とされるこの世では、失敗や間違いを探ることが多くなりがちです。また失敗を避けようとするあまり、誰かに責任を取らせようと、犯人探しに話題が集中しがちです。また新聞などのマスコミも同じで、悪や過失を話題にすることが使命のようです。しかしパウロはそれだけではないと言います。

すべての真実、誉れ、正しいこと、清いこと、愛すべきこと、評判の良いこと、徳と言われること、

称賛に値することがあるなら、それらのすべてに目を留めなさいと言っています。聖書の真の著者は、背後にある主ご自身ですから、それは主からのご命令でもあります。

私たちは神をないがしろにする世が、いかに罪にまみれているかを知っていますから、今さら悪に集中する必要はありません。むしろ自分自身も主のみこころを歩むために、その励ましを受けるために、すばらしいことに目を留めた方が良いのです。

そこから健全な信仰が生まれます。そうして「私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできる」との、積極的な信仰を持つて前進することができるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

